

各位

全3ページ
登録速報(2025-143)
2025年8月28日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部普及課

登録速報

下記のとおり、チフルザミドの再評価が終了しましたので、ご連絡します。
再評価終了年月日：2025年8月28日

記

1. 農薬の登録番号、種類及び名称

登録番号 第21410号

種類：イミダクロプリド・スピノサド・チフルザミド・トリシクラゾール粒剤
名称：クミアイフルサポート箱粒剤

2. 農薬の物理的・化学的性状

類白色細粒

3. 農薬の有効成分の種類及び含有濃度

1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N-ニトロイミダゾリジン-2-イリデンアミン…………… 2.0%
スピノサド 0.75%

スピノシンA

(2*R*, 3*aS*, 5*aR*, 5*bS*, 9*S*, 13*S*, 14*R*, 16*aS*, 16*bR*)-2-(6-デオキシ-2, 3, 4-トリ-O-メチル- α -L-マンノピラノシルオキシ)-13-(4-ジメチルアミノ-2, 3, 4, 6-テトラデオキシ- β -D-エリスロピラノシルオキシ)-9-エチル-2, 3, 3*a*, 5*a*, 5*b*, 6, 7, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16*a*, 16*b*-ヘキサデカヒドロ-14-メチル-1*H*-*as*-インダセノ[3, 2-*d*]オキサソクロテシン-7, 15-ジオン…………… 0.64%

スピノシンD

(2*S*, 3*aR*, 5*aS*, 5*bS*, 9*S*, 13*S*, 14*R*, 16*aS*, 16*bS*)-2-(6-デオキシ-2, 3, 4-トリ-O-メチル- α -L-マンノピラノシルオキシ)-13-(4-ジメチルアミノ-2, 3, 4, 6-テトラデオキシ- β -D-エリスロピラノシルオキシ)-9-エチル-2, 3, 3*a*, 5*a*, 5*b*, 6, 7, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16*a*, 16*b*-ヘキサデカヒドロ-4, 14-ジメチル-1*H*-*as*-インダセノ[3, 2-*d*]オキサソクロテシン-7, 15-ジオン…………… 0.11%

2', 6'-ジブプロモ-2-メチル-4'-トリフルオロメトキシ-4-トリフルオロメチル-1, 3-チアゾール-5

-カルボキシアニリド…………… 3.0%

5-メチル-1, 2, 4-トリアゾロ[3, 4-*b*]ベンゾチアゾール…………… 4.0%

4. 農薬のその他の成分の種類及び含有濃度 (15に掲げる事項を除く。)

鉱物質微粉等…………… 90.25%

5. 農薬の適用病害虫の範囲、使用方法及び使用期限

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 ウカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイユウ コブノメイガ イトムシ フタヒコヤガ イトヨリス イトスズメ	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱 当り50g	移植2日前 ～移植当日	1回	育苗箱の上から 均一に散布する。
	高密度には種する 場合は1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当 り50～100g)				

イタドリを含む農薬の総使用回数	スピノサドを含む農薬の総使用回数	チルガミドを含む農薬の総使用回数	トリシラゾールを含む農薬の総使用回数
3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	4回以内 (育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)

使用期限：5年

6. 農薬の使用上の注意事項（8に掲げる事項を除く。）

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤の所定量をそのまま手、または散粒機で育苗箱中の苗の上から均一に散布すること。なお、葉に付着した薬剤は軽く払い落とすこと。
- (3) 育苗箱の土壌表面が乾燥していて苗を田植機にのせる際、薬剤が落下するおそれがある場合は散布後葉に付着した薬剤を払い落した後軽く灌水すること。
- (4) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾糞として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- (5) 軟弱徒長苗、老化苗などでは薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- (6) 稲苗葉が濡れていると薬害を生じやすいので、散布直前の灌水はしないこと。
- (7) 本剤の処理により、時に葉の黄化や葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守すること。
- (8) 処理苗を移植する本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので代かきはていねいに行ない、移植後田面が露出したりしないように注意すること。移植後は直ちに入水し、水深2～3cm程度に保つこと。極端な浅水や深水は薬害の原因となるのでさけること。

- (9) 深植では薬害を生じやすいので深植にならないように注意すること。
- (10) 移植後、低温が続く苗の活着遅延が予測される場合、あるいは移植後極端な高温(30℃以上)が続くと予測される場合は薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- (11) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟堆肥多用田の場合は使用をさけること。
- (12) 本剤の使用にあたっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

7. 人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法

(1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

ア 農薬使用者に係る注意事項

① 毒性情報

吸入すると有害。

② 安全上の注意

1) 粉じんの吸入をさけること。

2) 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

3) 使用の際、飲食または喫煙をしないこと。

4) 作業後は手足、顔などをよく洗い、うがいをする。

③ 応急処置

1) 誤って飲み込んだ場合、気分が悪いときは医師の手当を受けさせること。

2) 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師の手当を受けること。

(2) 使用に際して講ずべき被害防止方法

ア 農薬使用者に係る被害防止方法

[散布者]

稲(箱育苗): 長ズボン・長袖の作業衣

8. 生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨

- 1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- 2) 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- 3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

以上